

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2774600551		
法人名	医療法人 千輝会		
事業所名	グループホーム神田イン国分		
所在地	大阪府柏原市片山町1-24		
自己評価作成日	平成 27年 8月 6日	評価結果市町村受理日	平成 27年 10月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvsoCd=2774600551-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 27年 8月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念にそった入居者のこれまでの人生を尊重し落ち着いた雰囲気の中で自分らしく暮らして頂けるように買い物から食事作りや洗濯・掃除できることは職員と一緒にしています。ホームは家族様やお友達、ご近所の方々が訪問して頂けるようにオープンにしていますので毎日のように訪問者があります。ボランティアの方の訪問やご近所の住職様が入居者の話し相手として毎週お越し頂いています。夏には河内音頭の方、秋にはだんじり、春には地域の青年団による和太鼓演奏と、入居者は地元のつながりで季節を肌で感じ楽しんでます。また、医療法人であり、医療との連携もあり月2回の往診以外でも緊急な往診なども対応しています。医療・介護双方からのケアの充実を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で活躍している医療法人が運営する、2ユニットのグループホームです。駅が近く、周辺には緑が多く小川が流れ鴨の親子が行きかうなどの環境に恵まれています。ホームでは鍵をかけないケアを実践しており、利用者が外出される場合には、職員が付き添い支援をしています。利用者は明るく活発で、利用者間でも仲良く助け合って過ごす姿が印象的です。職員は業務改善委員会や生活向上委員会を設置し、利用者のサービス向上に努めています。職員は、毎月「温泉の日」を設けて、温泉仕立ての変わり湯と手作りの飲み物等を提供し、利用者に喜ばれています。防災対策に力を入れており、市役所や消防署とも連携して水害や土砂災害を想定した備えをしています。医療連携システムを整えて、訪問看護ステーションとの連携を深めながら医療依存度の高い利用者を支え、看取り支援に取り組んでいます。職員の定着率が高く、管理者を中心に安定したサービス提供を行っています。法人のバックアップもあり、行政との連携も良いことから、今後もさらにサービス向上が期待できるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は運営理念を共有し、入居者の方々が、住みなれた地域でご近所の方やお友達が尋ねて来やすい環境を作りその方らしく過ごしていただくようにしている	ホームでは「共に生活される方々のこれまでの人生を尊重し、落ち着いた雰囲気の中で自分らしく暮らす事が出来る様に、私たちは温かく支援します」を理念として、利用者が地域の中で安心して暮らせるように支援しています。理念は玄関等、ホーム内に掲示して共有しています。管理者と職員は、会議等で再確認しながら、理念を活かした支援を進めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	住み慣れた地域で生き生き過ごしていただけるように、散歩や買い物などに出かけ地域の方と挨拶を交わしたり、ご近所の方が野菜や出かけたときのお土産を持ってこられたりと人の出入りが自由に出来るような環境を作っています	地域の祭りでは、だんじりや太鼓隊が玄関に立ち寄り、利用者が楽しめる機会となっています。ホームでは納涼祭を行い、地域青年団や老人会の協力を受けながら河内音頭等を楽しみ、参加された近隣の人々と利用者が交流できるようにしています。ハーモニカ、音楽療法、老人会のカラオケ、週1回来訪の住職傾聴ボランティア、落語家の到来など、ホームでは様々なボランティアの協力を得ています。近くの保育園児の訪問を受けたり、中学生の体験学習で交流したり、近隣住民から花や野菜をいただいたり、地域の喫茶店やレストラン等へ出かける等して、利用者は活気のある時間を過ごしています。ホームでは年2回、地域の人々を対象に、認知症の理解を深めるための勉強会を開催し、多くの参加者を得ています。管理者は地域の「認知症家族介護の会」に参加して、相談を受けたり、家族の悩みを聞いたりして、地域とのつながりを深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	年2回地域の人に向けて、認知症の人を理解していただくための勉強会を行っていますし、認知症家族介護の会では家族様の相談にのったり、地域包括支援センター開催の介護教室では、認知症について話をするなど地域の人々に向けて活かしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、市職員、民生委員、包括職員、入居者の家族、地域でかわりのある方等が会議に出席して利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況について報告や話し合いを行い、そこでの意見を全職員に全体会議で報告し、サービスの向上に生かしている。	運営推進会議は2カ月に1回、定期開催をしています。構成メンバーは利用者・家族、民生委員、介護相談員、地域包括支援センター職員、市職員、ホーム職員となっています。最近の議題では、運営理念の再確認、地域住民との連携、事故防止、急変時における迅速な対応、看取り介護、地域勉強会の開催等を提案し、意見交換をしています。会議で出された意見や提案等については、職員間で共有し、ホーム運営に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市職員とは機会あるごとに、行き来をしてサービスの向上に取り組んでいる。年2回開催する地域勉強会には積極的に協力をしていただいている。又、毎月、介護従事者の会があり市からや事業所からのケアサービスの取り組みを伝え合っている。</p>	<p>市担当者とは、何かあれば相談に向いて情報交換を行い、協力関係を深めています。災害対策では、河川の氾濫に備えて市に「土嚢」を要請し、出動してもらうこともあります。また、利用者の生活支援や後見人との連携等についても、相談しながら支援を進めています。管理者と職員は市内のグループホーム管理者会議や職員交流会に積極的に参加して、市担当者との協力関係を深めています。地域の人々を対象にした「認知症」の勉強会については、市担当者と相談しながら毎月2回、開催しています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>高齢者虐待防止関連法の研修に職員が参加を行い、内部研修として全職員に周知している。玄関には鍵をかけず、外出希望者には、職員が付き添い希望をかなえています。禁止するような言葉や行動をさせないケアを行っています。直近では2月の全体会議にて、身体的な拘束はないか日常的に言葉の拘束がないか皆で話し合い確認している。</p>	<p>運営規程に「身体拘束の原則禁止」を明記し、ホーム内に「身体拘束ゼロ宣言」を明示しています。職員は方針に沿って身体拘束を行わないケアを日々実践しています。日中、玄関のドアや門扉は常に開いており、エレベーターの利用も自由です。職員は利用者の気持ちに副って、外出を希望される場合には、常に同伴して出かける支援をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法の研修に職員が所外研修として参加を行い、所内研修として全職員に周知している。 また、所内研修として言葉の抑制（言葉の虐待）についても職員が振り返る事でケアの見直しに繋げている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>機会あるごとに、研修に参加を行い学ぶ機会を持っている。当ホームでも成年後見人制度を利用している入居者がおられる。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を締結、解約、改定の前後には十分話し合い利用者や家族の不安や疑問点を尋ね十分な説明のもと理解納得を得て署名印鑑を得ている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に(事あるごとに)利用者や家族等に意見や要望を管理者や職員に気楽に話せるような声かけを行い、推進会議での発言、市の相談窓口・介護相談員等意見や苦情を表す事が出来るように繰り返し伝えている</p>	<p>家族来訪時には、職員から声かけをして意見や要望を聞いています。ホーム内に意見箱を設置し、利用者や家族が要望や意見を出しやすくなるよう雰囲気作りをしています。市から派遣される介護相談員の来訪日時を掲示して、家族にも紹介しています。ホームだよりを定期発行し、行事や利用者の様子を掲載しています。また、月1回写真入りの個別だよりを送付し、日常の様子を報告するなど、家族との連携を深めています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は職員に運営の意見や提案を機会あるごとに聞き、代表者に伝え代表者の意見等も、全体会議で伝え話し合い反映させている。また全体会議の前には院長を交えて管理者、各フロアーリーダー、サブリーダーと会議を行い、各フロアーでの問題を共有して解決にむけての話し合いや現状を報告して院長の意見を聞き反映している</p>	<p>管理者は日常的に職員と対話し、意見や改善案等を聴取しています。さらに、職員会議やフロア会議でホーム運営についての検討を行い、職員の意見や提案を活かせるようにしています。また、業務改善委員会、生活向上委員会等を設置し、担当者を中心に検討を進め、全体会議等で方針を決定してサービス向上に取り組んでいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者であるドクターは各自が向上心を持って働けるように、研修や勉強会には積極的に参加を勧める、努力や実績を理解し職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保し、働きながらトレーニングしていくことを進めその成果を勉強会などで発表する機会を与えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	活発に勉強会や同業者との交流や研修の場を提供するなど、外からの風を積極的に取り入れ、お互いに刺激し合いサービスの向上に取り組んでいる		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前には、本人と話す機会を持ち、不安なこと、望むことなどに耳を傾け、入居される前に安心を確保し信頼関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前の段階から、家族やケアマネとは何度も話し合いや見学をして頂き、安心してサービスを受けて頂けるような関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階では家族に本人のニーズや生活歴を詳しく聞いたり計画書に記入してもらい「その時」まず必要としている支援を見極め暫定計画書を作成し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は運営理念を基本に、自立支援を念頭に置き、利用者の立場に立つケアを行い、暮らしを共にする関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に職員は本人と家族の絆を大切に思っているので、家族の気持ちに沿い、共に本人を支える支援を行っている（機会あるごとに家族の気持ちを伺っている）		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>最近では認知度が高くなり身体状態が悪化されている方が増えたが、馴染みの人との交流や馴染みの場所には家族の協力も得て支援に努めている</p>	<p>職員は、利用者の友人・知人が来訪した際はゆっくり話ができるように接待し、利用者が楽しく過ごせるよう支援しています。利用者が行きつけの美容院へ出かけたり、一時帰宅をしたりできるよう、家族の協力を得ています。職員は、利用者とは出かける際にできるだけ利用者の馴染みの場所を通るように心がけ、思い出話をしながら風景等を楽しめるようにしています。職員は年賀状や暑中見舞い、礼状など、慣習を活かした支援をしています。また、電話の使用については、利用者の希望に副って日常的に支援しています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>当ホームの自慢の1つでもある、職員が関わり合うのではなく、自然に利用者同士が関わり合いを持ち支え合い職員がつい微笑んでしまう風景が毎日見受けられます</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了しても、家族からこれまでの関係を大切にしてくる電話をいただいたり、困っておられる人に此処の存在を伝え相談に来られる人もいたり家族や本人の支援以外にも関係を大切にしている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	運営理念を基本に職員一同本人の思いを大切に本人本位のケアを行っている、困難な場合は気付きシートやセンター方式の私の姿と気持ちシートを使い職員間や家族様とも一緒に考えている（バリデーションや回想法等も取り入れている）	日頃から利用者の思いや意向を確認し、対応するよう努めています。言葉での表現がしにくい利用者には、表情や行動、しぐさを確認しながら支援しています。「気付きノート」や「私の姿と気持ちシート」を活用して、職員間で共有し、支援に活かしています。職員が努力しても十分に思いや意向が確認できない場合には、家族の協力や利用者同士の助けあいからヒントを得ることもあります。	ホームでは利用者とのコミュニケーションが図りにくい状況になっても、利用者の思いや意向を十分にくみ取れるように、家族と協力しながら、利用者本位の支援に取り組む予定です。そのために研修を充実して、さらに職員の意識向上を図るよう計画しています。今後、取り組みの成果が期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の前に本人に関わりのある方々から生活歴や馴染みの暮らし、サービス利用の経過などを聞き取り、ケアに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援を基本に毎日の介護記録を通してニーズに取り揚げ現状を総合的に把握するように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を作成するにあたり、家族や関係者と話し合い、本人の気持ちになってそれぞれの意見やアイデアを出し合い情報を集め、ホームでの生活をしてみて職員とも話し合いを続けながら介護計画を作ったりモニタリングを行ったりしている</p>	<p>利用者や家族の意向を確認し、職員の気付きノートで把握した情報を追加して、介護計画書を作成しています。また、医師や看護師からの専門的なアドバイスを受けると同時に、ミーティングで話し合い、職員のアイデアを活かした支援をしています。介護計画書はモニタリングを行い、6か月を目途に見直しをしています。また、必要な際は随時、見直しを行っています。介護計画書はその都度家族に説明し、了承サインを得ています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日介護記録に日々の様子、ケアの実践、結果等を記録し情報を職員間で共有して意見を出し合って介護計画の見直しに活かしている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況に応じ、その時々にも生まれるニーズに対応できるように職員間や事業所間で連携して柔軟な支援やサービスを行っている（個々に気付きシートを作り、その都度活かしている）</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域との繋がりが続けられるように、地域の人との協力も得て秋祭りには地域の青年団によるだんじりが来たり、保育園児の訪問や老人会の慰問などを受け豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を取り入れ適切な医療を受けられるように支援している。情報交換をするなど医療機関との連携に努めている。入居前にかかりつけ医や受診希望を確認し家族と協力して通院介助を行っている	ホームでは、利用者が希望に副った医療機関で、適切な医療が受けられるように支援しています。利用者がかかりつけの医療機関とは、密に連携をとり、受診に際しては必要な支援をしています。利用者は、希望に副って母体法人の医師による往診や、歯科医師による訪問診療を受けることができます。また、夜間や急変時に備えて、医療連携支援体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体が医療機関であり、医療連携加算を取っていることで日常の健康管理等訪問看護師との連携も取れ適切な受診や看護が受けられるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の医療機関との連携は密にとれている。運営推進会議にも病院関係者の参加があり、日常的にも電話連絡等情報交換も出来ている。入院をした場合も早期退院に向けて連携を取っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方、看取りについて等入居される時に事業所で出来る事等十分に説明を行い「看取りの指針」に同意を得署名捺印を得ている。終末期ケア時は何度も家族、医師、看護師と話し合いを持ち職員は日常の健康管理、急変時の対応が出来るように研修訓練を行っている	入居時に「看取りの指針」を説明し、家族の同意を得ています。職員は看取り支援の経験を活かし、さらに充実した支援ができるよう、研修を重ねています。医療連携支援体制を取っており、終末期には家族や医師、看護師、ホームの職員で話し合い、利用者を見守りながら支援の充実を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備えて定期的に全職員はロールプレイを通して万が一に備えて慌てることの無いように実践力を身につけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署の協力を得て入居者と職員は避難訓練を行います。また推進会議等を通じて地域の皆様や家族の協力をお願いしています。災害時の非常用食料や飲料水、備品を年1回点検備蓄している</p>	<p>消防署の協力を得て、年2回の防災避難訓練を行っています。避難訓練では、2階の利用者はベランダを出て救助を待つなど、具体的な避難方法を決めて消防署と連携しています。台風時の水害対策としては、市役所と連携を図り、「土嚢」を積み上げる対策を講じるなど、家族や近隣とも連携して実態に即した対応をしています。非常時に備えて、ホーム内に2～3日分の水や食料品等を備蓄していますが、食品についてはさらに内容を充実するよう、検討を進めています。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>運営理念にも謳っているように、常に一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように自己点検の機会をもち正しい対応の仕方の確認を行っている</p>	<p>利用者を人生の先輩として尊敬し、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように言葉かけをするなど、職員間で話し合い丁寧な対応をしています。職員採用時には、個人情報保護に関する契約を交わし、プライバシーの保護については施設内研修を徹底しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で選択できる場面や事柄を多く作っている。例えば朝の着替えや入浴後の衣服、食事の好き嫌い、飲み物も選択できるように又外出を望まれば自由に出て頂きます(付き添い)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営理念でも謳っているように、自分らしく暮らして頂く様に、職員は入居者の思いを大切にしています。その日によって一日の過ごし方も様々です。入浴も希望の時間に毎日入られる方もいます		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分や、その時の気分によって何度も着替えられる方もいます。化粧品も一緒に買いに行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が食べるだけのものになるのではなく、チラシを見たり献立を考えたり調理を一緒にしたり後片付けも職員と一緒にいき、楽しみになる様になっている。又、今回は地域の喫茶店に行き好きなものを選び職員と共に楽しみました。	ホームでは利用者の好みに合わせて献立を作り、1階と2階では別メニューにしています。職員は、朝・昼・夕食からおやつまでを手作りにしています。下ごしらえ、盛り付けや片付けなど、利用者ができるところは職員と一緒にしています。台所は居間兼食堂と対面キッチンになっており、食事の準備の音や臭いが食欲をそそります。庭で育てた野菜や、近所の方からいただいた野菜が食卓に上ることもあり、ゴーヤの佃煮等を手作りしています。外出時の弁当は、利用者の好きなおかずを入れて手作りしており、弁当は利用者にとって楽しみの一つです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事形態や栄養のバランスや量を考えたり、介護記録に水分量を記入して1日の水分量を確保する等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事後1人ひとりに応じた口腔ケアを行い、歯ブラシなどもその方に応じたものを適切に使えるように日々職員が目配っています。また、月に2回訪問歯科にも来てもらい必要に応じて診療もしてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状態を把握する為に正確に記録をとり一人ひとり排泄パターンを知り失禁を防ぐように早めのさり気ない誘導を行うなど布パン対応で排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間を考慮してさりげなくトイレに誘導するなど、自立を目指した排泄支援をしています。職員は、できるだけオムツ類を使わず、利用者が布パンツで過ごされるようにしています。ほぼ自立している利用者にも配慮して、清潔が保てるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便に向け水分摂取を促し排泄時腹圧をかけるように促したり運動を進めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日健康チェックを行い本人に入浴を促し、曜日や時間を決めずに本人の希望する湯加減やゆず湯、菖蒲湯等入浴を楽しめるように支援している。	ホームでは、利用者が毎日入浴できる体制にしています。入浴を好まれない場合でも、音楽をかけて誘うなど、時間をかけて丁寧な声かけを行い、週3回程度は入浴できるように配慮しています。気の合った利用者同士入ることもあります。月に1回、「温泉の日」を設けて、入浴剤と飲み物を準備し、入浴が楽しくなるよう支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	和室に布団を敷き横になったり、 居室のベッドを布団に変えたり その時々状況に応じた対応を 行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	常に医師や薬剤師と連携をとり 指示に従っている。複数の職員 による服薬確認を行い、服薬に よる症状の変化などに気を付け るように毎回申し送り時確認を 行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	日々のコミュニケーションの中 からその方の生活歴や楽しみご とを把握し、料理の好きな方 はキッチンで、編み物の好きな 方は手編みで孫にマフラーを プレゼントされたり、音楽の好 きな方はキーボードを弾き皆と 歌ったりと毎日喜びのある日 々を過ごせるように支援して いる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々のコミュニケーションの中で情報を集め、家族に本人の思いを話してみたり、ホームから外出に出かけたり桜、紅葉などを見に出かけたりとホームだけの生活にならないように支援している	ホーム前の橋から、桜並木や川の魚、野鳥を見ることができ、利用者は日常的に外出し、四季を楽しんでいます。また、職員は利用者と一緒に買物や近隣の散策にも出かけています。年間を通じて、初詣、花見、外食、ドライブ等、利用者の希望に添った外出支援をしています。喫茶店へは個別支援として出かけ、好きなケーキ等を食べて楽しんでいます。利用者の外出時の姿や笑顔は写真に残して記録し、1年分をまとめて家族へ送付しています。家族と外食、美容院、病院等へ出かける利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物を希望されれば付き添い買い物に行き支払いもしていただく。金銭管理ができない方は、職員が確認を行いつつ使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	日常的に電話の使用の支援や手紙のやり取りの支援を行っている。特に暑中見舞いや年賀状は職員のさり気ない声かけにて早めに出している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の生活空間には家庭で使われているものを利用して家庭的な雰囲気を作り、不快な音や光がないようにカーテンなどで工夫をしている。庭には季節ごとの花や野菜、フロアーには詩や絵、ちぎり絵等を一緒に作り季節を一緒に感じるように支援している	ホールや玄関には、ゆったりと座れるソファや椅子や植木鉢を置いています。毎朝、窓を開けて新鮮な空気を入れ、空気清浄器を置いて利用者が快適に過せるようにしています。居間兼食堂の大きな窓からは、外の桜並木や川にかかる橋が見え、道行く人と挨拶もできます。廊下の壁には、職員の顔写真を勤務時間帯別に貼り、出勤者が一目でわかるように工夫しています。1階と2階は別玄関になっており、外付けのエレベーターで自由に行き来ができます。日頃から感染予防のために項目を決めており、塩素消毒をして清潔を保っています。庭には、季節の野菜のゴーヤ・トマト・オクラ・キュウリ等を育て、季節を感じるができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや玄関、庭等に椅子やソファを置きさり気ない見守りで、コミュニケーションをとり思い思いに過ごせるように工夫をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや思い出の品物を多く置き、本人が居心地良く過ごせるように、入居前に家族と話し合い協力しあっている。特に家族が持って来られた写真はとても懐かしく不安になられた時には居室で職員と一緒に見て話すと落ち着かれる。	居室には、利用者の馴染みのタンスや家具、時計や家族の写真、手作り作品等を配置し、居心地良く過ごせるようにしています。家族がいない利用者の居室については、職員が利用者や家族と相談しながら必要な物を揃え、居心地よく過ごせるように努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に自立した生活ができるように、台所は自由に出入りができ調理を一緒にしたり、ほうきを目に付くところに置いてある（気がつけばほうきで身近なところを掃いておられる）又手すりをつけ段差をなくすなど安全に過ごせるように工夫をしている		